

第9回

高大連携教育フォーラム

高大連携教育フォーラムは、高校・大学間の連携・接続教育問題における「国内動向の情報提供・事例研究と京都における取り組みの情報発信」を開催趣旨として実施しています。

日時

平成23年12月2日(金) 9:30~17:00

会場

キャンパスプラザ京都(京都駅前)

新学習指導要領が求める学力とは

第1部 基調報告・シンポジウム

9:30 ▶▶ 12:40 定員 200名

開会挨拶 北村 聡 (京都高大連携研究協議会運営委員長 / 京都外大西高等学校 校長)
趣旨説明 保坂 芳男 (大学コンソーシアム京都 高大連携推進室長 / 立命館大学 教授)

基調報告 9:30 ▶▶ 10:20

テーマ **社会・経済の変遷と求められる人物像の変化**
報告者 桐村 晋次

(古河電工(株)常務取締役、古河物流(株)社長、
法政大学大学院教授(キャリアデザイン学専攻)、文科省審議会等委員、
日経連・経団連教育問題委員を経て神奈川大学 特別招聘教授)

概要

経済成長、技術革新、日・米・欧経済のゆらぎ等の状況の変化に対応して、社会における能力開発の進め方も上司や先輩を見習う方法から、組織内教育の体系化と標準化を経て、「従業員自律・企業支援型」の人材育成策に転換してきつつある。

学校教育も、グローバル化や情報技術の進展に大きな影響を受け、新教育課程は、新たな学力形成の課題として、①基礎的・基本的な知識・技能の習得、②それらを活用した思考力・判断力等による問題解決、③主体的に学ぶ態度の育成、を目指している。

高大連携によって社会に有為な人材を育成するには、どんなことに留意し、どんな工夫が求められているのかについて、具体例をあげながら議論を進めたい。

シンポジウム 10:20 ▶▶ 11:45

テーマ **新学習指導要領の背景にある学力観を探る**
~高大接続の観点から~

シンポジスト 寺脇 研 (京都造形芸術大学 教授)
関目 六左衛門 (京都市立西京高等学校 校長)
田中 明 (キンシ正宗株式会社 取締役製造物流部長)

指定討論者 椋本 洋 (大学コンソーシアム京都 高大連携推進室/立命館大学 教授)
コーディネーター 保坂 芳男 (大学コンソーシアム京都 高大連携推進室長/立命館大学 教授)

討論・意見交換・まとめ 11:55 ▶▶ 12:40

第2部 分科会I

13:30 ▶▶ 15:00 定員 各80名

分科会 A【キャリア】

テーマ **キャリア教育で培われる力とは**

分科会 B【入 試】

テーマ **多様化する入試方式は社会との
接続(高大就接続)にどう影響するのか**

第3部 分科会II

15:30 ▶▶ 17:00 定員 各30名

第1分科会【表現技法】

テーマ **対話や表現をデザインするカリキュラム**

第2分科会【数 学】

テーマ **数学的モデリングからのアプローチ**

第3分科会【英 語】

テーマ **基礎学力の育成をめざして—高大連携の可能性を考える—**

第4分科会【理 科】

テーマ **発表体験を通して得られるもの**
~高校段階における学会形式での研究発表体験~

第2部・第3部の詳細は、裏面をご覧ください▶▶▶

主 催

京都高大連携研究協議会

- 京都府教育委員会
- 京都市教育委員会
- 京都府私立中学高等学校連合会
- 京都商工会議所
- 大学コンソーシアム京都

お問い合わせ先(火~土 9:00~17:00)

公益財団法人 大学コンソーシアム京都 高大連携事業部

〒600-8216 京都府下京区西洞院通塩小路下る キャンパスプラザ京都
E-mail:kodai@consortium.or.jp
電話:075-353-9153 FAX:075-353-9101

◀ お申し込み方法は裏面をご覧ください。

第2部 分科会 I 13:30~15:00

分科会A【キャリア】 キャリア教育で培われる力とは

報告者1 藤澤 俊樹 (近江兄弟社高等学校 校長)
報告者2 上田 高志 (近江兄弟社高等学校 教諭)
報告者3 松永 敬子 (龍谷大学 准教授)
コーディネーター 長上 深雪 (龍谷大学 教授)

概要

学校教育におけるキャリア教育は、一人一人の発達や社会人・職業人としての自立を促す視点から、変化する社会と学校教育との関係性を意識しつつ、日々の教育活動の理念と方向性のもとに実践されるものである。キャリア教育は、特定の教育内容や指導方法に限定されるものではなく、さまざまな教育活動を通して実践されている。さらに昨今、その実践は学校教育の中で高まりを見せ、成果も上がりつつある。

本分科会では、龍谷大学が実践的教育プログラムと位置付けて取り組む「協定型インターンシップ」ならびに近江兄弟社高等学校が大学や地域と連携して取り組む「連携教育」の事例報告を通じて、キャリア教育で培われる力を明らかにし、今後のキャリア教育の充実に資するものである。

分科会B【入 試】 多様化する入試方式は社会との接続(高大接続)にどう影響するのか

報告者1 村田 健三郎 (龍谷大学 教授)
報告者2 柳父 孝則 (参天製薬株式会社 チームマネージャー)
コーディネーター 田中 峰和 (株式会社マイナビ キャリアガイダンス担当)

概要

近年、大学の入試選抜は、AO入試から各種推薦入試、一般入試まで多様化しており、進学後の学習習慣の維持、卒業前の就職活動などに大きな影響を与えている。学力の習熟度を測る一般入試を経ない入学者は約半数を占め、基礎学力のばらつきも問題化。大学の出口の就職に関して、企業側からの評価基準が学力を見直す傾向も出ている一方、平成23年4月から大学における「キャリア教育」の義務化もスタートし、社会への接続の強化も図られている。

学力保証とキャリア教育を両立させることが大学に求められるなか、企業では採用活動・社員教育をどのように実践しているのか。高大接続から高大接続を念頭においた高校段階からの進路指導は、入試方式に関わらず、基礎学力の向上を目指した指導が重要であることを大学・企業の立場からの報告で明らかにする。

第3部 分科会 II 15:30~17:00

第1分科会【表現技法】 対話や表現をデザインするカリキュラム

報告者1 長谷川卓也 (京都橘高等学校 教諭)
報告者2 望月 紫帆 (特定非営利活動法人学習開発研究所 所員)
コーディネーター 筒井 洋一 (京都精華大学 教授)

概要

過去の分科会では、高校の国語科以外の様々な科目における日本語表現法教育について議論を深めてきた。そこでは、異なる科目であっても適用可能なコンテンツや手法についての学びを深めてきた。

今年度は、表現教育の授業形式に注目する。生徒・学生の学びを深め、表現する楽しさを実感するためには、教師から学生に対して、知識や考え方を一方向的に伝える伝統的な講義型形式ではなく、学生自身が学びの意味を考え始めることが大切である。今回のゲストは、大学や高校での実践にとどまらず、学生の多様なレディネスに対応した協調自律学習を実践している教員に登場してもらおう。この学習方法がどのように表現教育に導入できるのかを考えてみる。

第2分科会【数 学】 数学的モデリングからのアプローチ

報告者1 紀平 武宏 (京都市立紫野高等学校 教諭)
報告者2 河崎 哲嗣 (園田学園女子大学 准教授)
コーディネーター 正木 廣樹 (京都市教育委員会 指導主事)

概要

新学習指導要領では、①知識・技能を活用して実際の生活や社会の中から課題を見つける、②その課題を分析、探究する活動を通して知識理解の定着、習得を促す、③数学的論拠に基づいて判断する態度を育てる、ことが求められている。

高校からは、総合的な学習の時間を活用した『数学セミナー』(統計入門)の実践を、大学からは、数学的モデリング(数学化)を切り口に、京都で実践された中学・高校・大学を見通した関数教材とそのワークショップ、数学I「データの分析」に関わる先行基礎研究の中で明らかになった今後の課題と展望を報告する。

そこで本分科会では、日常的な場面での課題を数学化し、その課題を探究、発表する活動を通して、どのような生徒を育成できるかについて協議したい。

第3分科会【英 語】 基礎学力の育成をめざして ― 高大連携の可能性を考える ―

報告者1 山下 剛正 (龍谷大学附属平安中学校・高等学校 教諭)
報告者2 島田 守 (龍谷大学 名誉教授)
コーディネーター 浮田 義巨 (京都府私立中学高等学校連合会外国語研究会 会長 / 同志社中学校・高等学校 教諭)

概要

10年前、平安中学校・高等学校では、独自の魅力ある教育実践を目指し、龍谷大学との高大連携にその可能性を求め、教育改革に着手した。高校側の「大学受験に縛られない、生き生きとした基礎学力を育みたい」という思いと、大学側の「大学での学びに欠かせない基礎学力を身につけた学生を送ってほしい」という思いが一致し、高大双方の教員が参加したワーキンググループが編成された。その後、ワーキンググループを軸に、高校現場でのカリキュラム構築、授業創り、そして、その教育成果の検証と総括を行ってきた。

この度、そのプロセスを報告させていただくことを通して、基礎学力とは何か、またそれを育むために高大連携にどんな可能性を期待できるのか、を考える一助になれば幸いである。

第4分科会【理 科】 発表体験を通して得られるもの ~ 高校段階における学会形式での研究発表体験 ~

報告者1 須貝 義和 (京都府立西舞鶴高等学校 教諭)
報告者2 太田 哲男 (同志社大学 教授)
コーディネーター 遠山 秀史 (京都府教育委員会 指導主事)

概要

京都府立西舞鶴高等学校では、平成18年度に自然科学系専門学科「理科探究科」を設置して以来数多くの生徒発表会を行っている。高1、高2、高3と成長段階に応じた指導で積み上げていく学科行事と研究発表体験を通して生徒たちが得るものは何かをテーマに、同志社大学との高大連携事業における「高校側の願い」と「大学側が期待すること」について論じる。

分科会では、高校側から(1)専門学科での取組紹介、大学側から(2)高大連携による取組内容と大学が期待する人材について発表したのち、コーディネーターにより(3)発表体験を通して得られるものについて参加者を交えた議論を深めていく。

新学習指導要領で新設された理科科専門科目「課題研究」設置予定校の実践例を通して、研究発表体験から得られるものとは何かを探る。

申込方法(先着順)

大学コンソーシアム京都WEBサイトからお申し込みください。
先着順とさせていただきます、定員になり次第、締め切らせていただきます。
期間 10月13日(木)12:00~11月18日(金)
URL <https://event.consortium.or.jp/kodai9/>
定員 第1部200名 第2部 各80名 第3部 各30名

手順

お申込み手続き完了後は、参加分科会の変更はできませんのでご注意ください。

①上記URL、もしくは「公益財団法人 大学コンソーシアム京都」ホームページ左列の「第9回高大連携教育フォーラム」のバナーから、「メールアドレス確認フォーム」にアクセスし、メールアドレスを入力・送信してください。

②送信いただいたメールアドレスに「参加申込フォーム」のURLをメールでお送りします。

③記載のURLにアクセスし、画面の指示に従って申込手続きを行ってください。

※「参加申込フォーラム」URLの通知メールが届かない場合は、メールアドレス誤入力等の可能性がございます。その場合はお手数ですが「メールアドレス確認フォーム」にメールアドレスを再入力・再送信してください。

※お申し込み手続き完了後に「申込完了メール」を送信します。翌日になっても申込完了メールが届かない場合は、ご面倒ですが大学コンソーシアム京都までお問い合わせください。

参加費(レジュメ・資料集含む)

京都府内の高等学校・大学関係者 1,000円
上記以外(京都府内の企業参加者含む) 2,000円
※当日、受付にてお支払いください。

会場までのアクセス

